



写真右から、荒谷卓氏、窪寺伸浩氏。江戸総鎮守・神田神社にて。

「日本の文化防衛の具体的なアクションを起こさないといけないのです」 荒谷卓

衛体制の整備構想を約7年間やらせていただきました。その中の一 つに、新たな世界情勢に対応した部隊「特殊作戦群」という、それまでに無かったタイプの部隊の計画、創設事業がありました。これには10年以上かかりました。

窪寺 どのようなことをする部隊なのでしょう？

荒谷 東西冷戦が終わり、米ソの大規模な軍事対立はもうないという世界情勢の中で、アメリカ大統領が「今後は、新世界秩序の構築のため軍隊を使う」という発言をしました。それによって、世界中の軍隊が戦車や大砲などの部隊をほぼ廃止し、世界の秩序作りに適した部隊に切り替えたのです。

その主たる部隊が非通常作戦を遂行できる「スペシャル・フォース」です。これは何かと言うと、例えば「新世界秩序」に合わない国の政体を変える政府転覆、あるいは「新世界秩序」に誘導するためのスペシャル・オペレーションを軍隊がするということです。

窪寺 イメージ的には諜報機関のようなものですか？

荒谷 CIAやMI6のような諜報機関と一緒にオペレーションをして、グローバル化を進めるためには、どの国のリーダーは誰にした方が良いかを決め、実際にその

窪寺伸浩 (くぼでら・のぶひろ)

(神棚マイスター・クボデラ株式会社代表取締役)

昭和36年東京都生まれ。東洋大学文学部卒。昭和21年創業の老舗木材問屋の三男として生まれ、神棚マイスターとして、神棚の販売を通じて神棚の大切さとその存在意義を普及する活動を行い、様々な企業の朝礼で神棚の祀り方などをアドバイスしている。「木を哲学する企業」を名乗るクボデラ(株)代表取締役社長。東京神棚神具事業協同組合理事長。著書に『なぜ、成功する人は神棚と神社を大切にするのか?』(あさ出版)、『幸せを呼ぶ「住まい」づくり』(アートデイズ)がある。



入魂の最新刊、大好評発売中!

『大天狗が教えてくれた本当のスピのこと』
著者/窪寺伸浩 発行/かざひの文庫 価格/1,430円(税込)



常に「和」に向かって生活するのです

陸上自衛隊に幹部候補生として入隊し、陸上幕僚監部での勤務以降10年以上かけてエリート部隊「特殊作戦群」を創設した荒谷卓氏。退職後は明治神宮の武道場「至誠館」館長を9年間務めた後、三重県熊野市に「熊野飛鳥むすびの里」を設立し、稲作を中心とする「農」と、日本の歴史や神話を学ぶ「教学」と「武道」を二本の柱として、日本の国を守る共同体制に取り組んでいます。武士道を体現し歩み続ける荒谷氏に、神棚マイスター・窪寺伸浩氏が、日本の国を守るということとは、どういうことなのか? をじっくりとお伺いしました。



武道家らしい佇まいの荒谷卓氏。

荒谷卓 (あらや・たかし)

(武道家・「熊野飛鳥むすびの里」代表)

昭和34年、秋田県大館市に生まれる。昭和57年、東京理科大学卒業。陸上自衛隊に幹部候補生として入隊。自衛隊暦は19普通科連隊(福岡)、第1空挺団、39普通科連隊(弘前)、陸上幕僚監部、防衛局防衛政策課戦略研究室、研究本部。ドイツ連邦軍指揮大学及び米国特殊作戦学校に留学。特殊作戦群初代群長、平成20年に退職(1等陸佐)。平成21年9月から平成30年10月、明治神宮武道場「至誠館」館長を務める。平成30年11月、三重県熊野市飛鳥町に国際共生創成協会「熊野飛鳥むすびの里」を設立する。著書に『特殊部隊 VS. 精鋭部隊』『サムライ精神を復活せよ! 宇宙の屋根の下に共に生きる社会を創る』『日本の大義と武士道 戦う者たちへ』(並木書房)、『自分を強くする動じない力』(三笠書房)。



『サムライ精神を復活せよ! 宇宙の屋根の下に共に生きる社会を創る』
著者/荒谷卓 発行/並木書房 価格/1,760円(税込)

窪寺 荒谷先生は東京理科大学卒業後に自衛隊へ入隊されていますが、それはどういう経緯だったのでしょうか?

荒谷 尊敬していた先生から「貴様は軍人の顔をしているから自衛隊へ行け」と言われたのです。学習院大学中等科で今上陛下や秋篠宮様に歴史を教えていた島田和繁という方です。

当時、私は三島由紀夫の思想と行動を勉強していたものですから、自衛隊に対しては「三島を見捨てた組織」として反発がありました。そのようなこともあって、戦後アメリカによって創られた軍隊を正しい「皇軍」にしなければいけない、という思いで自衛隊に入ったのです。

26年間、陸上自衛隊に所属し、ひたすら正しい日本の軍隊にしようということだけを考えておりました。幸いドイツ留学後は陸上自衛隊の幕僚監部と防衛局防衛政策課戦略研究室というところで、東西冷戦後の世界情勢において日本はどういう防衛体制を取れば良いのか、という防衛戦略立案と防

国衛のための特殊部隊を創る

「日本には海外の情報を独自に収集する国家としての仕組みが無いのです」 荒谷卓

人物をリーダーに据えるのです。窪寺 「オレンジ革命」とか、中東で起きていたようなことは全てそうなのですね。

荒谷 「アラブの春」とか、「カラー革命」など全てそうです。現在のウクライナで起きていることや、ゼレンスキーが大統領であることが典型的な例です。

窪寺 その頃のアメリカ大統領は誰だったのでしょうか。

荒谷 冷戦が終わり「新世界秩序」を世界に宣告したのがブッシュ（父）大統領です。お父さんの方のブッシュ大統領が、「新世界秩序へ向けて」(Toward a New World Order)という有名なスピーチを行いました。その後、息子のブッシュ大統領が対テロ戦略を打ち立ててかなり横暴なやり方で、積極的に軍隊を使って秩序作りにあたるということになったのです。それ以降の民主党政権下には露骨なグローバル化のための政府転覆がアラブ世界や東ヨーロッパで進んできました。

このような世界情勢の大きな転換を踏まえ「日本でも特殊部隊を創るべきだ」と私が提案いたしまして、意外と早く実現し、私が指揮官になりました。創設時は300人くらいのエリート集団で、全員が下士官以上です。知的にも

体力的にも、いろんなジャッジメントにおいても、特別な能力がある人間だけを選別し編成した部隊です。秘密部隊ですので、その存在は認められていませんが、中身にについては公にされていません。指揮官の私だけはメディアに出て良いのですが、隊員は一切公に出れません。

アメリカの国際戦略を生々しく体験する

窪寺 特殊作戦群を創設された後、自衛隊をお辞めになったのはどうしてなのでしょう。

荒谷 私が自衛隊に入隊した目的「自衛隊を正しい軍隊にする」ためにやる事業として、戦後体制のきつい縛りの中でできることはそこまでかなと。

特殊部隊を作るためアメリカの特殊作戦センターに留学したのですが、そこでアメリカの国際戦略を生々しく見るようになりました。これをそのまま続けていたならば、日本なんか跡形もなく無くなってしまふ、と思いましたが。日本の文化防衛の具体的なアクションを起さないと、日本は消滅してしまふと思ったのです。それで、真に日本を守る為の行動を起こし力を尽くそうと考えたのです。

私としては元々、国の守りとは自衛隊だけの問題とは思っていませんでした。これだけ文化が破壊されてしまつては、もう自衛隊がどうこうとか、そういうレベルではないのです。国民意識とか、政治の根底のところ、「日本」という歴史的国家意識というものが失われているわけです。

やはり、そこから再建していかないと国防というものは成り立たないと考えました。当初は「百姓侍村」という、百姓侍の共同体を作ることを構想していました。日本文化を体現できる小集団で、しかも実力も持っている、そういう共同体を作るため、いろんな地域も見て回っていたのです。

窪寺 そのような構想が、今されている「熊野飛鳥むすびの里」や自治集団というものに結実しているのです。

荒谷先生は自衛隊を退職後、明治神宮の武道場「至誠館」館長を9年間務められていますが、それもすごいことです。

荒谷 その話を聞いた時、最初はお断りしたのですが、いろいろ考えたら武道の中に日本文化の大事な部分もありますし、武道を通じて日本人の覚醒とか……、さらに、武道は外国人にとっても人気があるので海外での日本思想の普及に有

新世界秩序か、国家を大事にするのか？

祖先や自然ですから、ものすごく近く一体化しているのです。

例えば、イスラム教も生活慣習と教義の経典は一体なのですが、絶対的な神に対する服従という構造になっていきますから、人間がそこに口を挟むことは禁止されています。

日本の場合は、神の命令に従うのではなく、現世の我々が常世の神様と、どうしたら良い世の中になるかということ、意を宜し神々に御伺を立てるといふ、つまり常に神様が人々をしるしめし、人々は神恩に感謝しながら神人合一して生きるわけです。それは一般的な宗教とはまったく違うものです。

日本はアメリカの51番目の州なのか？

窪寺 荒谷先生は実際にアメリカで勉強された時、アメリカの世界戦略の中でこのまま行くと日本なんか溶けてしまふと感ぜられたそうです。まさに今の日本は経済まですっかり弱くなつてしまふ、嘆かわしい状況です。また、水の問題、農業や食の問題……、僕らのあざかり知らないところで、どんどん大変なことになっている。それは

どうしてなのでしょう？

荒谷 日本は戦後、アメリカのローバリストに管理されています。米軍占領下に日本が失ったものは「世のため人のためになることが幸せなこと」という価値観を「自己実現こそが最大の幸せ」という卑しい価値観に変えられるなど、とつともなく大きいのですが、現実面では国家として独自の海外情報収集機能を保有できない状態になりました。独自に世界の情報を取つて、独自に分析し判断するということも禁止されたということです。

私は偵察衛星の期待性能作成にも関わりましたが、竹下登内閣の時にアメリカから潰されました。今では防衛省も偵察衛星を持っていますが、何故かと言えば、その情報は一元的にアメリカが管理するという約束で持っているだけなのです。日本は海外の情報を独自に収集する国家としての仕組みが無いのです。商社とか、民間の方が余程あると思います。

冷戦時代は、米国の対ソ戦略のもと、ソ連の東側にある日本に軍事拠点を構築し、NATOと日本と東西からソ連に軍事的圧力をかけ、経済は日本人の力を利用して共産

主義経済に勝利しました。しかし、ソ連が崩壊した以降、日本はお払い箱となり、稼がせたお金どころか日本丸ごと奪ってしまおうというのがグローバリストの考えです。

窪寺 日本はアメリカの51番目の州だとか、属国だとかよく言われますが、あなたが間違っているのではないのです。

効であると考えました。やはりグローバル化している社会ですから、日本単独で世界のルールを変えるということはできない、世界的な大きいムーブメントがないと成功しないということが、「スペンシャル・オペレーション」の世界で肌身を通じてよく分かったものだから。武道を通じ、国内外の日本文化意識を高めようと思ひまして、お引き受けしたのです。そして「至誠館」の館長になってすぐに作ったのが、日本武道の国際的な組織「国際至誠館武道協会（ISBA）」です。とくに欧米の高い階層の人たちが武道の思想に関心がありますから、元在日ポーランド大使を会長に立て国際組織を作りました。

窪寺 私も、日本の良いところはもつともつと世界で普遍的なことになつていくべきだと思うのです。神道も、例えばユダヤ教のような一民族の宗教、としておくにはもつたいない、と考えています。「人類教」と言いますが、人類全体にも影響を及ぼして、人々を救うのが日本の一つの使命ではないかと思うのです。

荒谷 「惟神の道」というのは宗教ではなく、祖先と自然に対する崇敬畏怖の思いを持って日々の生活を送る文化慣習だと思ひます。ですから、神というものの認識が、



写真左から、荒谷卓氏、窪寺伸浩氏。神田神社の文化交流館内のカフェ「EDOCCO CAFE MASU MASU（江戸っ子カフェ マスマス）」にて。



三重県熊野市の国際共生創成協会「熊野飛鳥むすびの里」で、農業にも取り組む荒谷卓氏。

「どうやって『和』を守るのか？ その思考と行為を捨ててはいけません」 荒谷卓

を公式に宣言し、それ以降は、市場化、自由競争、グレートリセット等そのための政策をたくさん打ち出しています。しかし、日本人はそれによってどういう世界ができていくのか、ということを理解していません。ただ、アメリカがやりなさいと言ったことを「きつと良いことなのだろう」と、やっているのです。しかし、私たちのような愛国者からすると、売国行為をみないなものなのです。国家主権を全てニューワールドオーダーに移譲する、という考えになっていくのですから。

最近の世界の選挙を見ていますと、どこの国も、選挙のテーマは「新世界秩序」に従うのか「国家として自主自立」するかという争点で議論され、国民の選択を問うています。日本だけは、そのことについての議論が一切無いのです。

ニューワールドオーダーというは、チャールズに言わせると「民主権国家を廃絶し世界政府の管理による恒久的な平和体制の実現」であり、一般的用語の定義としては「世界政府のパワーエリートがトップとする地球レベルでの政治・経済・金融・社会政策の統一、究極的には末端の個人レベルでの思想や行動の統制・統御を目的とする管理社会の実現を指すもの」と

されています。

それは国民にとって重大な出来事ですから、やはり国民が本当にそれで良いのか議論して決めなければいけない、とてもとても重要なことなのです。日本だけです、一切それが選挙でも国会でも出てきません。これが今の日本の最大の問題です。それをきちんと議論し国民が選択しなくてはならない。でも、今は国民が選択できるチャンスも無いのです。

窪寺 今、例えばジェンダー問題とか、多様性ということ、マスコミや左翼の論説は「みんな、同じ人間なのだから」という合言葉で、国家や民族を破壊しようとしています。

荒谷 いわゆる「左翼」と言われている人たちは早い時期から、国家に対する愛着を捨ててしまっているわけですから、彼らにとって日本が無くなるのは重大な出来事ではないのかもしれませんが、今は保守と言われる人たちが新世界秩序を志向し、国の資産・資源を市場に売りまくっているわけで、右も左も売国奴だらけになってしまいました。

「和」を尊ぶからこそ、荒御魂を忘れてはいけない

「和」に「武」という漢字をあてただけで、どういう意味の言葉かという「むすひ（産霊）」の「むすひ」なのです。「武」というのは「むすひ」、神皇産霊神、高皇産霊神の「産霊」の生成作用を荒御魂をもって具現する、ということが本来のな意義なのです。

また、「さむらい（侍）」の言葉の語源になっているのも、天孫降臨の時、天照大御神が天児屋根命と天太玉命に、常に天皇様のお側に「さぶらい」で、よく守り、よく防ぐことをせよと出された神勅で、よく守り、よく防ぐことをするのが「さぶらい」なのです。だから「さむらい」とは、天皇様の大御心をお側で助けるといのが、本来の意味だ、というわけ

です。天皇様というのは和御魂のシンボルみたいな方で、元々は天照大御神様の荒御魂もお持ちではあるのですが、やはり荒御魂の部分は臣下であるものが代わって補佐する、という意味の「武」なのです。だから、目的は「和」を、にぎにぎしい世の中を建設していく天皇様の仕事を助けるためです。常ににぎにぎしくありたいものの、外

「和」の根本・万物万象は一元である

や、中からも和を乱すことが起きた時に、和を守り禍事を祓うのが荒御魂の仕事です。やはり「和」を乱そうとする者は懲らしめなければいけない。そこを「武」が担うのだと、そういう風に教えていただいたのです。

伊勢神宮の内宮の御正宮の裏には荒祭宮が祀りされているように、「和」を尊ぶからこそ、荒御魂というものを忘れてはいけないのです。「尊いから絶対を守るのだ」という気概を持っていなければいけないはずなのです。ところが、「戦争や暴力が悪い」というレベルと同じにして荒御魂を放棄してしまっただけで、尊い「和」を守る思考と手段が現れてこない。これが現代社会の問題ではないか、と思っ

ています。どうやって「和」を守るのか？ この部分の思考と行為というものを捨ててしまうと、結局は「和」が保てないということになります。

日本の文化を自ら体現する

窪寺 荒谷先生にとっては、神話と日本人の生き方も、武道も、全てが一致しているということ

窪寺 戦後、日本人はずっと「武」とか、戦うとか、いろんなものを捨ててきました。某新聞の統計によれば、「もし自国が攻められたら戦うのか？」というアンケートで、世界の中で日本が一番低いらしいですね。ベトナムが96・4%、中国が88・6%、ノルウェーが87・6%、あのウクライナでも56・9%なのですが、日本はなんと13・2%と断トツで低いのです。

日本人のゆとり教育も含め、今の働き方改革なんかを見ていても、戦わない社会へどんどん向かっています。もちろん「殺人剣」と「活人剣」という概念が示すように「何のために戦うのか」という大義が一番重要だとは思いますが……。この闘争本能というか、戦うということ

をいかに日本人に目覚めさせるか？ 一つのキーワードとしてサムライ精神等があるかもしれませんが……。荒谷先生は職業軍人でしたから、まさに戦うことを使命とされていたわけです。いったい何が日本人を奮い立たせるのでしょうか。

荒谷 私は鹿島神流の国井善弥先生と、神道の今泉定助先生を師として勉強しましたが、「武」という言葉の意味について腑に落ちる説を教えてくださいました。「武道」の「武」は大和言葉でい

が、先生の理想とする社会、生き方はどういふものなのでしょう？ 荒谷 日本の神話は、天の御中主神様から全てが一次的に生成してきた、という考えがベースにあります。宇宙というものは一元であり、「万物万象一元である」という考えが日本人の「和」の思想の根本なのだと思います。「祖先を辿っていくと全てが一元なのだ」という縦の「和」、歴史の「和」をまずベースにして、そこから横の「和」といふものを考えていく。

ですから、我々は小集団だろうが常に歴史を重んじる「和」に向かって生活する。共同体を大切に、みんなと和することで問題を解決していく。グローバルリストが支配する戦後体制下にそういうことをいきなり国家レベルでやるということとは難しいので……、やはり身の回りの家族や、集落、町内、会社、そういうところで「和」の文化を肅々と実践していくことです。そして、そのような小集団、い

ろんな「和」を尊ぶ共同体があれば、あとは天皇様がしろしめして全体を統一するということをお役をなさってくださるわけですから。だから我々、一般国民がすることは、



稲作を中心とする「農」と日本の歴史や神話を学ぶ「教学」と「武道」を三本の柱とした「熊野飛鳥むすびの里」。



選挙や政府に期待するよりも、まずは自分の身の回り、自分の所属する団体が「和」を尊ぶという実態を作ること。これが喫緊の国民の課題だと思っています。

ですから、私も「熊野飛鳥むすびの里」で共同体作り、日本の文化を自ら体現する、「日本人をやる」という活動をしております。そのためには、まずお米作りである、と。休耕田を全て借り受けて、草ぼうぼうになっていたところを全て田んぼに戻し、みんなが百姓をやっております。

そして、今の日本人は正しい歴史、あるいは神話や神様のこと等、もう一度しっかりと勉強した方が良いので学びの場も作りました。また、荒御魂の部分が日本人からかなり消失していますので、尊いものを守るという勇氣と、そういう実力、気持ちも養うことも必要です。世の中がどうなっても、ちゃんと生きていけるという安心を得るという意味でも「武」もやらなければいけない。そのように「農」と「教学」と「武」を三本柱として活動を展開しているのです。

窪寺 素晴らしいですね！ 私も東京郊外で農業のコミュニティ作りをしておりますので、ぜひ「熊野飛鳥むすびの里」へ勉強にお伺いさせていただきますと思います。